

## 第2章 当別町の人口及び疾病等の状況

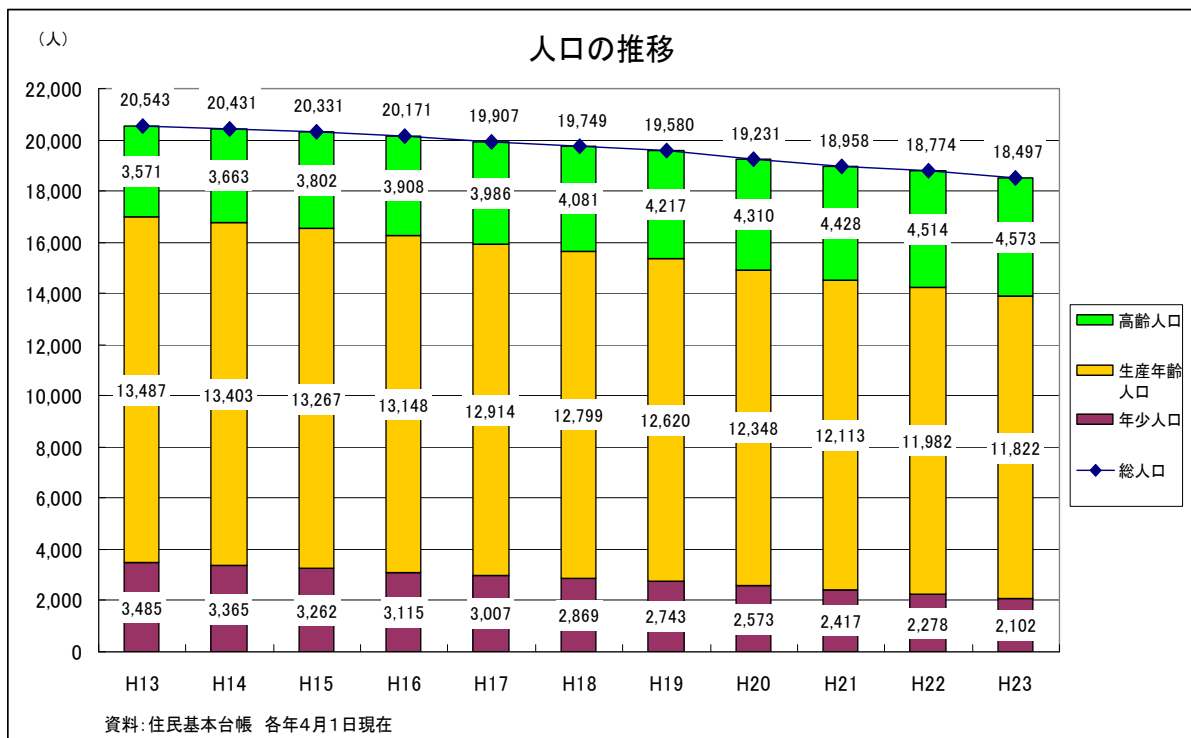
### I 人口の状況

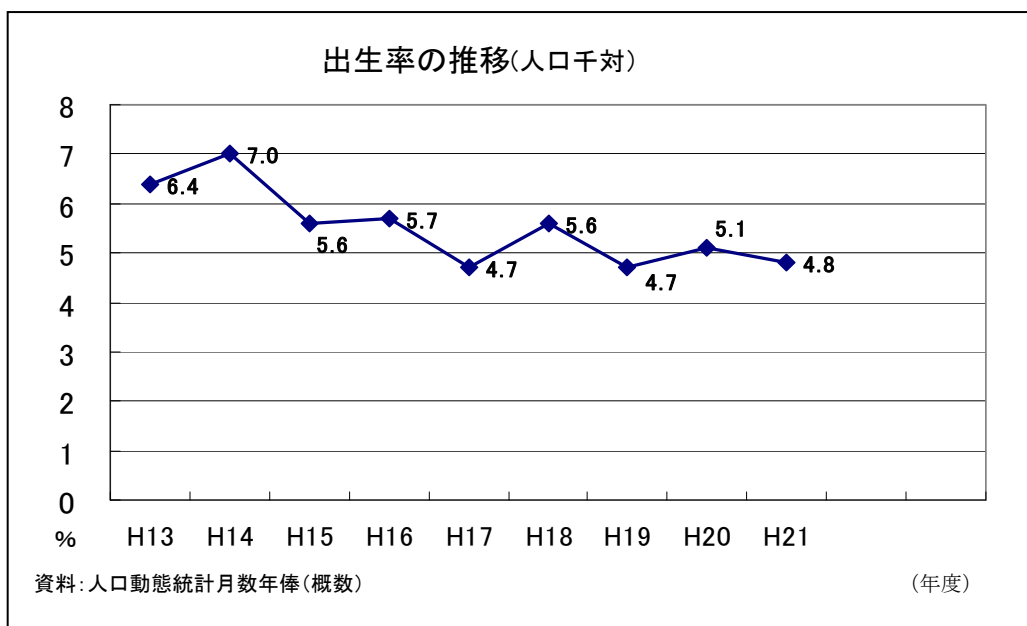
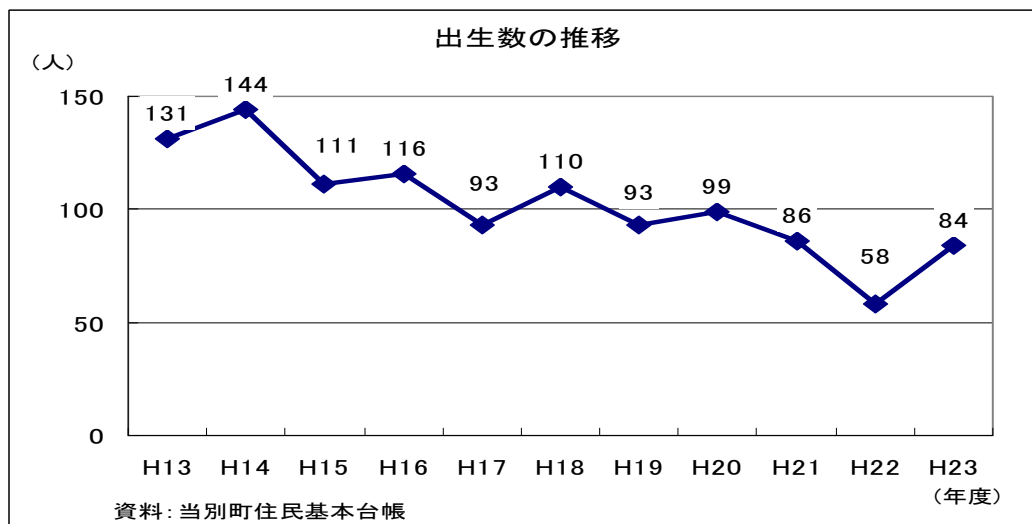
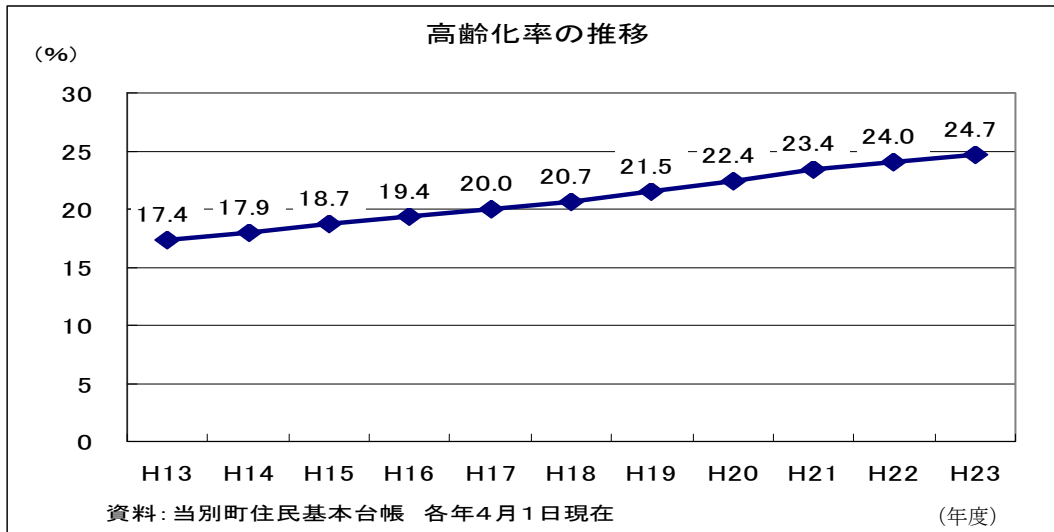
#### 1 人口の推移

当別町の人口は、平成13年以降減少が続いており、平成23年の人口は、18,497人で、10年間で2,046人の減少となっています。

年齢別にみると、年少人口（0～14歳）および生産年齢人口（15～64歳）は年々減少していますが、高齢人口（65歳以上）は年々増加しています。高齢化率は17.4%から24.7%へ7.3ポイント増加し、超高齢社会となっています。

出生数は、増減を繰り返しながらも徐々に減少しており、平成23年度は84人で、10年間で47人の減少となっています。また、出生率（人口千対）でみると、減少傾向で経過しており、平成21年で4.8となっています。



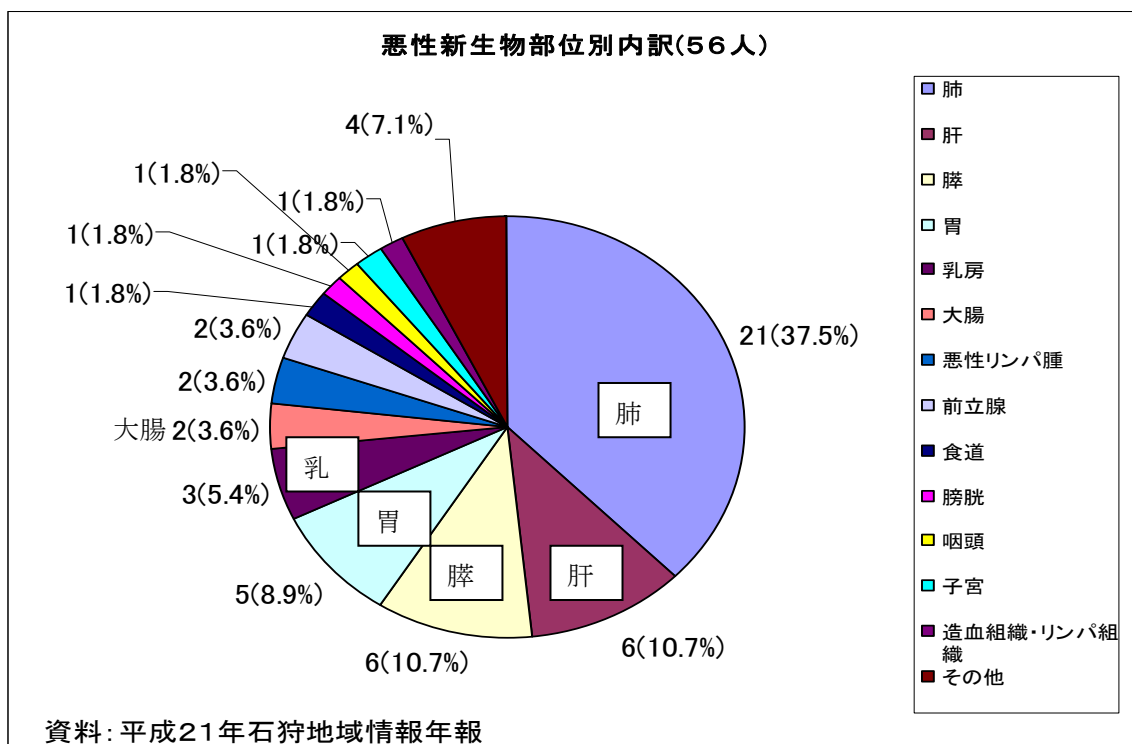
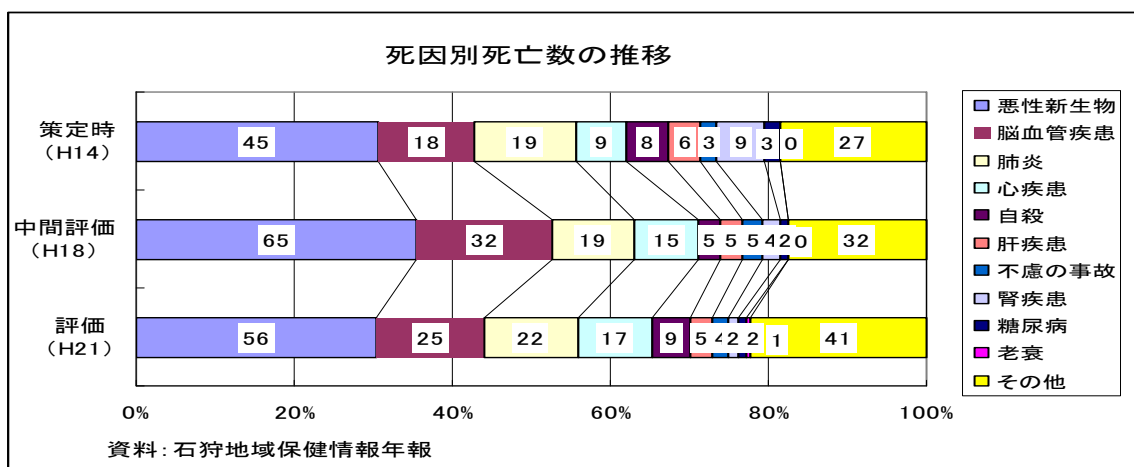


## Ⅱ 疾病等の状況

### 1 死因別死亡の状況

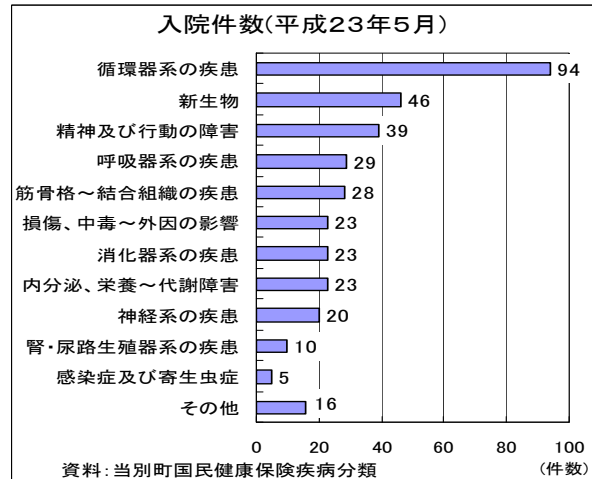
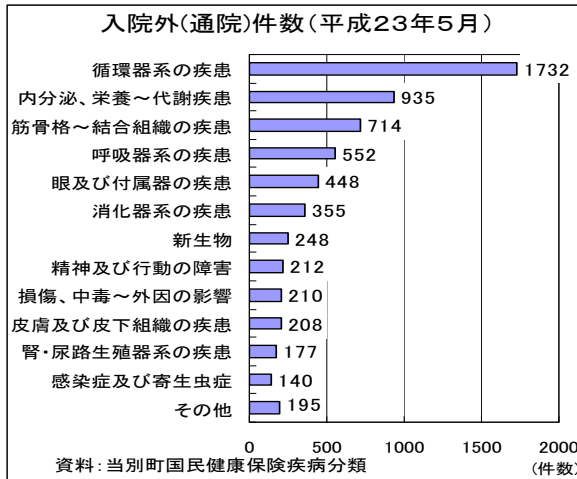
平成21年度の死因別死亡数は、1位は悪性新生物(がん)、2位は脳血管疾患、3位は肺炎、4位は心疾患、5位は自殺の順となっており、生活習慣病(悪性新生物、脳血管疾患、心疾患)が半数以上を占めています。

悪性新生物部位別内訳は、1位は肺がん、2位は肝がんおよび膵がん、続いて胃がん、乳がん、大腸がんの順となっています。



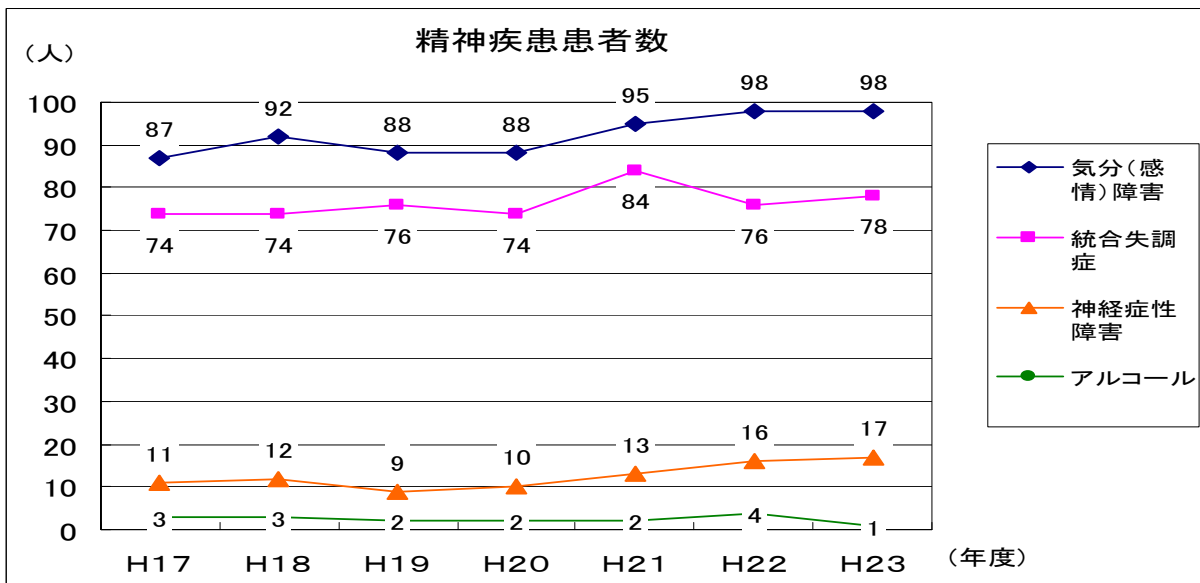
## 2 入院外(通院)及び入院の状況

入院外(通院)件数は、1位は循環器疾患、2位は内分泌、栄養～代謝疾患、3位は筋骨格～結合組織の疾患となっています。入院件数は、1位は循環器疾患、2位は新生物、3位は精神および行動の障害となっています。



## 3 精神疾患患者の状況

気分(感情)障害(うつ病、躁うつ病など)や、神経症性障害(適応障害、パニック障害など)が増加傾向にあります。



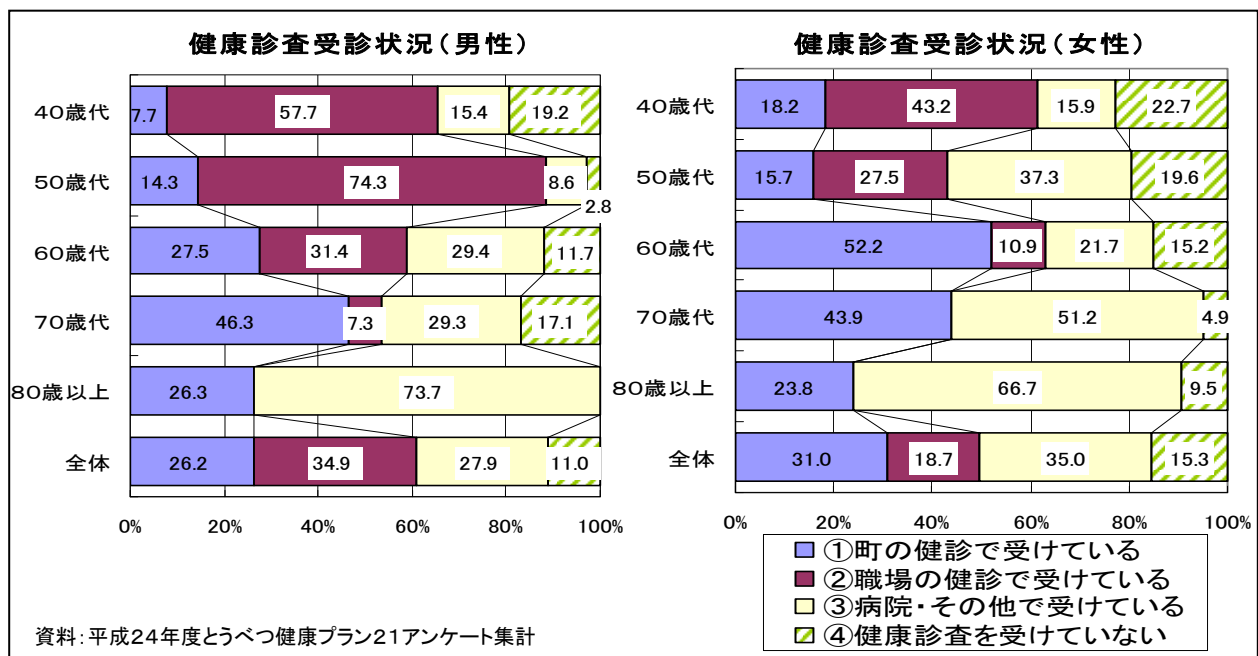
### Ⅲ 健康診査の状況

#### 1 健康診査の受診状況

##### 1) 健康診査の受診状況について

健康診査の受診率は女性よりも男性の方が高く、男性は職場での検診、女性は医療機関や町の健診で受けている割合が高くなっています。

健診を受けていない理由として、男性は、「通院中だから」「気になる症状や異常がないから」、女性は、「面倒だから」「気になる症状や異常がないから」が上位の順となっています。



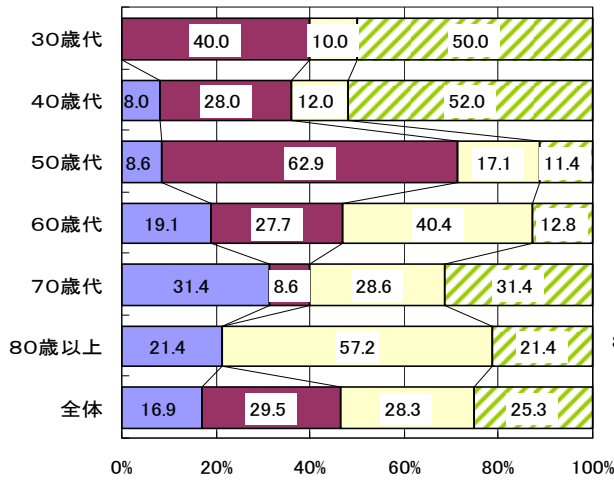
##### 2) がん検診の受診状況について

###### ① 胃・肺・大腸がん検診の受診状況について

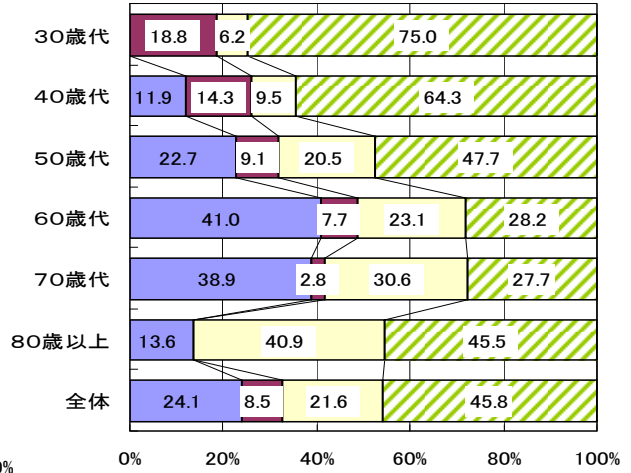
女性よりも男性の方が受診率は高く、男性は職場での検診、女性は町の検診で受けている割合が高くなっています。年代別に見ると、受診率の高い年代は、各がん検診ともに男性は50歳代、女性は60歳代、受診率の低い年代は、男性女性ともに40歳代となっています。

検診を受けない理由として、男性女性ともに「気になる症状や異常がないから」が最も多く、次いで男性は「検診を受ける時間がない」、女性は「面倒だから」（肺がん、大腸がん）、「検査方法に抵抗がある」（胃がん）と、検診により理由が異なります。

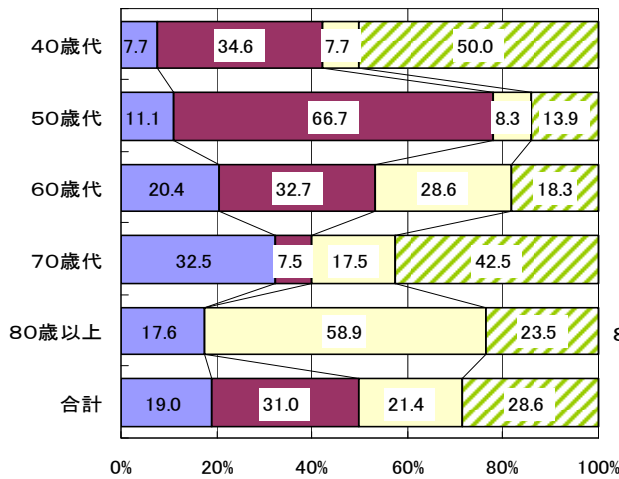
胃がん検診受診状況(男性)



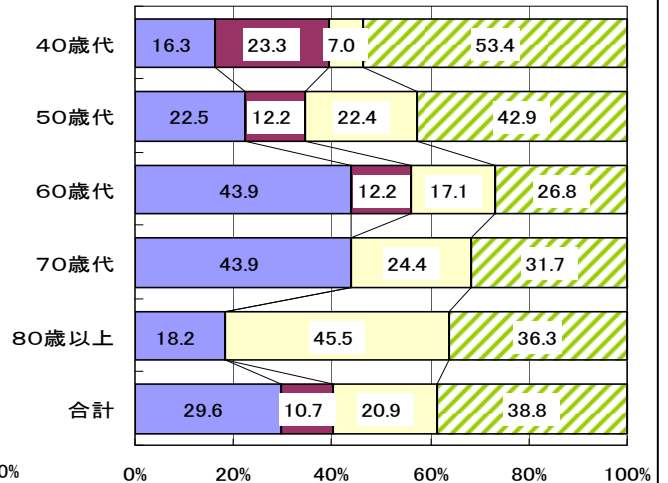
胃がん検診受診状況(女性)



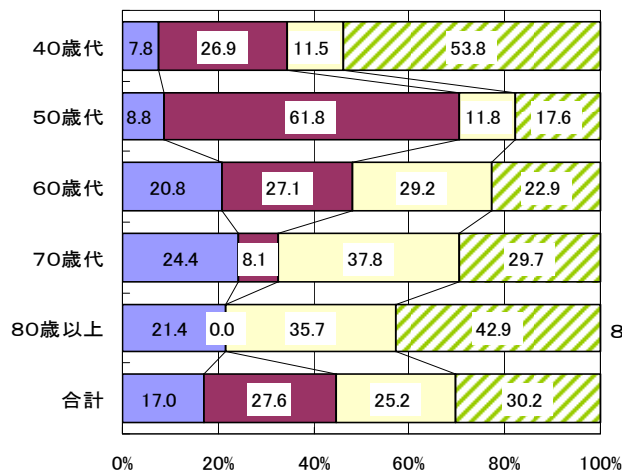
肺がん検診受診状況(男性)



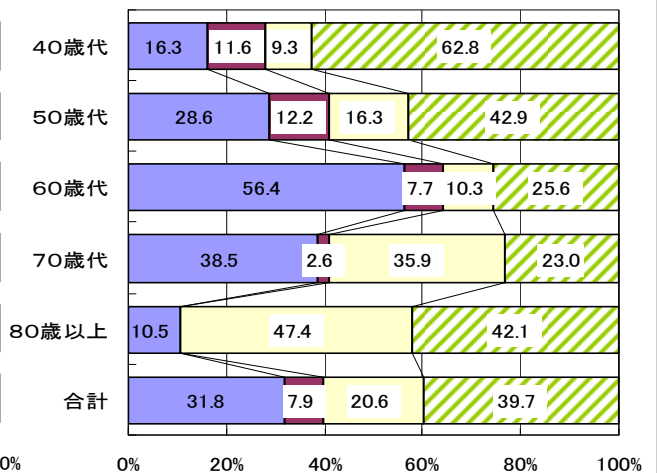
肺がん検診受診状況(女性)



大腸がん検診受診状況(男性)



大腸がん検診受診状況(女性)



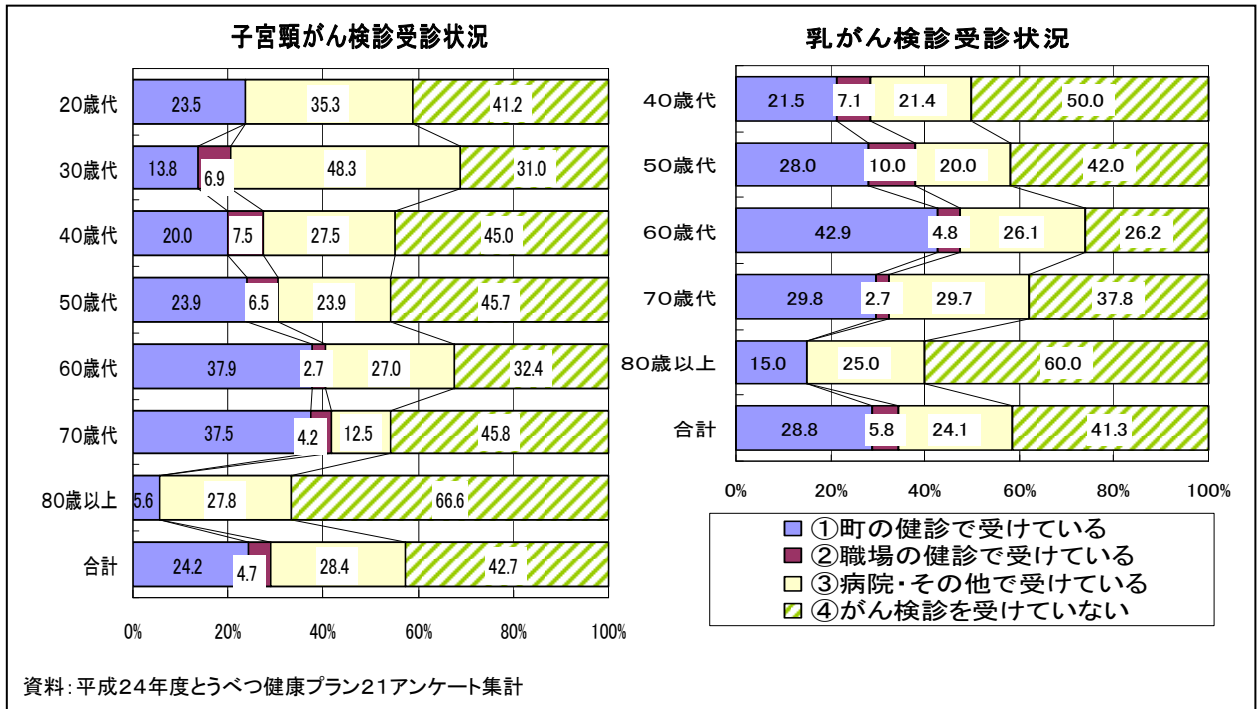
- ①町の健診で受けている
- ②職場の健診で受けている
- ③病院・その他で受けている
- ④がん検診を受けていない

資料:平成24年度とうべつ健康プラン21アンケート調査

## ② 子宮頸がん・乳がん検診の受診状況について

子宮頸がん検診は、病院で受けている割合が最も高く、乳がん検診は、町の検診で受けている割合が最も高くなっています。

検診を受けていない理由として、どちらの検診も「気になる症状や異常がない」が最も多く、次いで子宮頸がん検診は「その他(子宮摘出手術を受けた等)」、「面倒」、乳がん検診は「面倒」、「料金が高い」の順となっています。



## 2 特定健康診査の状況

### 1) 当別町国保の特定健康診査及び特定保健指導の実施状況について

特定健診・特定保健指導は、糖尿病等の生活習慣病の有病者・予備群を減少させるために、平成20年度から保険者に実施が義務化されました。

当別町の特定健診の受診率は、全道でも高い受診率ですが、目標60%に対して51.7%で、ほぼ横ばいに推移しています。年齢別にみると、65歳以上の受診率は高い傾向にありますが、若年者の受診率は低くなっています。

メタボリックシンドローム(※4)該当者及び予備群を対象とした特定保健指導は、目標40%に対して36.9%となっています。特定保健指導だけでは発症予防・重症化予防は不十分であり、非肥満者・治療中者への保健指導も重視し実施しています。

#### 〈特定健康診査の実施状況〉

	H20年度		H21年度		H22年度		H23年度	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
目標	—	35.0	—	45.0	—	55.0	—	60.0
実績	1,968	57.0	1,823	52.8	1,839	52.8	1,830	51.7

資料: 当別町特定健康診査受診結果

#### 〈特定保健指導の実施状況〉

	H20年度		H21年度		H22年度		H23年度	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
目標	—	25.0	—	30.0	—	35.0	—	40.0
実績	151	43.6	139	51.5	127	54.7	86	36.9

資料: 当別町特定健康診査受診結果

(※4)メタボリックシンドローム…内臓に脂肪が蓄積した肥満(内臓脂肪型肥満)により、肥満症や高血圧、高脂血症、糖尿病等の生活習慣病が引き起こされやすくなった状態。

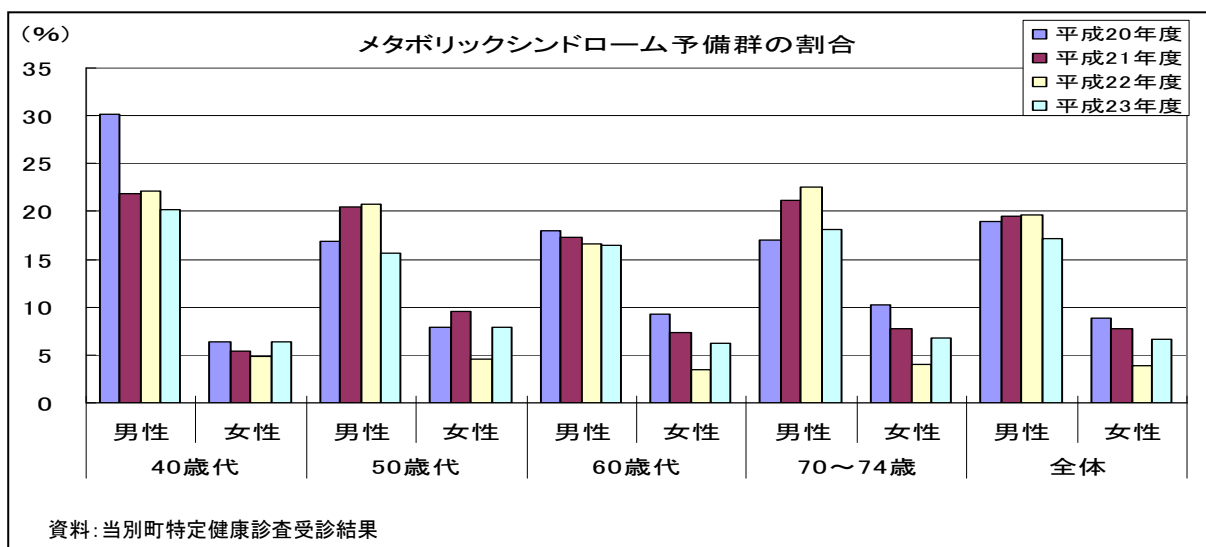
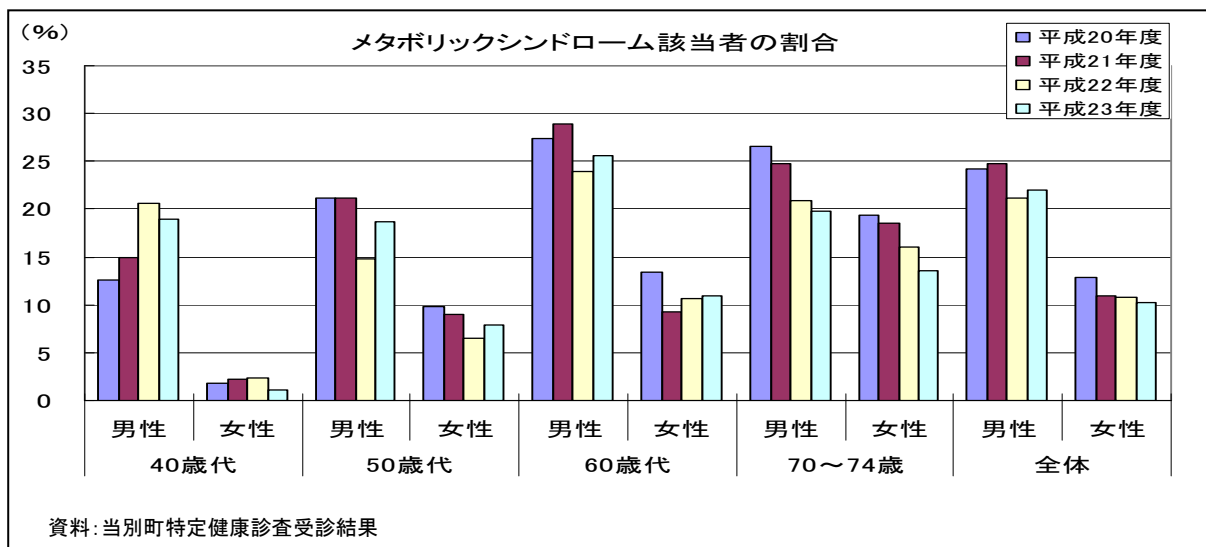


## 2) 健診結果について

### ① メタボリックシンドロームの状況

当別町では全体的にメタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合は減少していますが、内服による該当者が増えています。特定健診の結果から、内服を開始する必要のある人も多く発見できているためです。非該当（改善）となるための腹囲の減少は容易に変化せず、単年では成果が得られにくいため、継続した支援を必要としています。

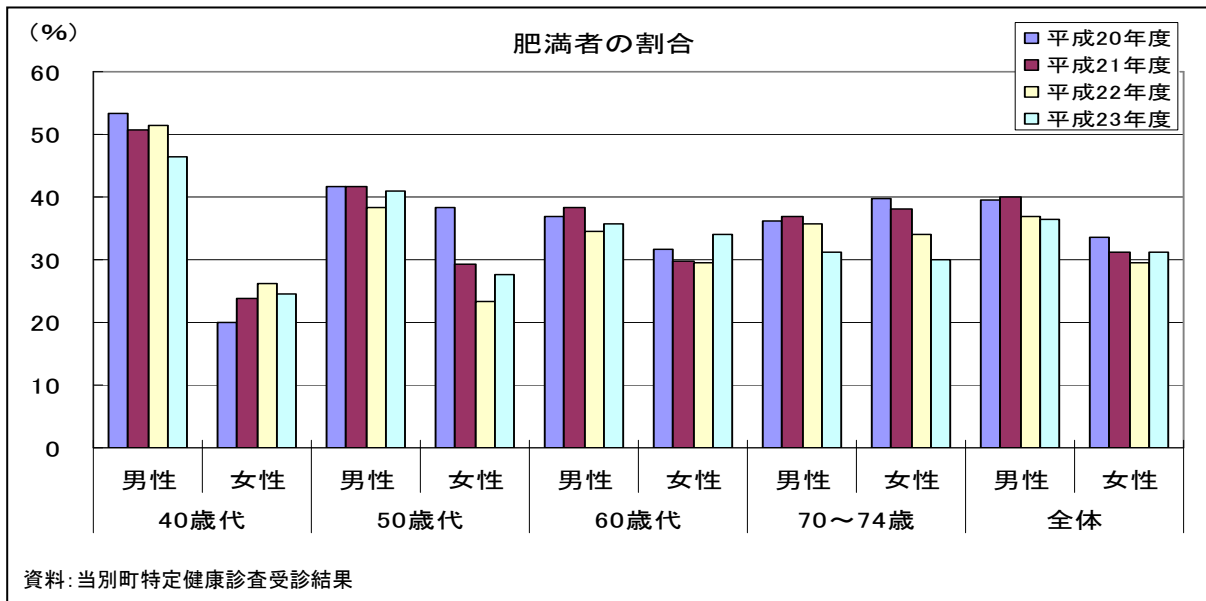
また、男性は40歳代のメタボリックシンドローム該当者及び予備群が多く、女性は年齢とともにメタボリックシンドローム該当者及び予備群が増える傾向にあります。特定保健指導の成果として、保健指導を実施した3割以上の方でメタボリックシンドロームの改善がみられています。



## ② 肥満者の状況

体重は、ライフステージを通して、生活習慣や健康状態との関連が強く、肥満はがん、循環器疾患、糖尿病等の生活習慣病との関連が強いといわれています。

当別町では、以前から肥満者の割合が高いことが課題となっていました。経年的に肥満者は減少傾向にあります。しかし、40歳代男性の肥満率が非常に高い傾向にあります。



## ③ 糖尿病の状況

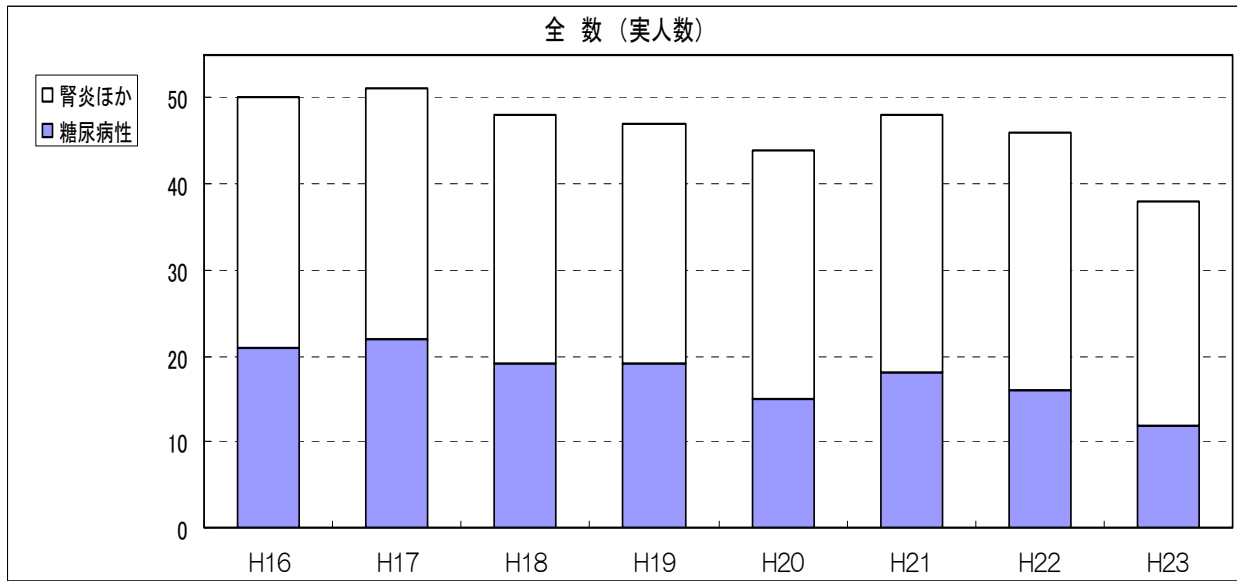
合併症の危険が大きいHbA1c 8.0以上者は減少傾向にありますが、当別町の糖尿病有病者は全国と比べても大変高くなっています。糖尿病は、新規透析導入の最大原因疾患であり、発症予防・重症化予防のためにも、特定健診受診者を増やすこと、未治療者・治療中断者を減らし、良好な血糖コントロールを維持していく必要があります。

〈HbA1cの推移(HbA1cの単位:%)〉

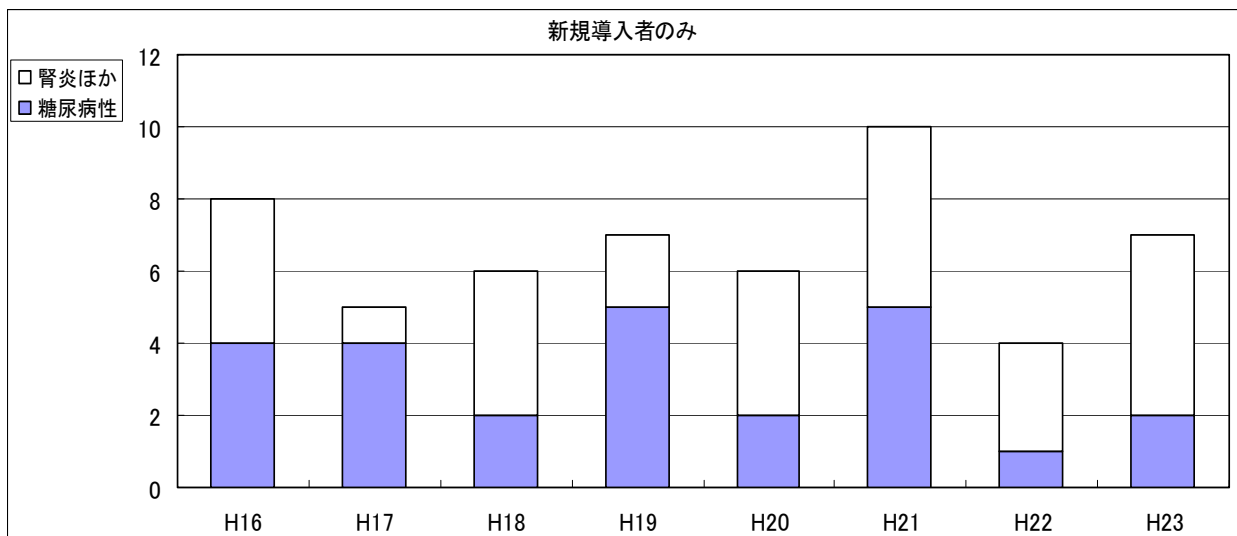
年度	総数	正常～正常高値		境界領域		糖尿病領域		合併症の危険が大きい			
		～5.4%		5.5%～6.0%		6.1%～6.4%		6.5%～		再)8.0%～	
		人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
H20	1,958	1,330	67.9	420	21.5	57	2.9	151	7.7	31	1.6
H21	1,813	1,185	65.4	441	24.3	60	3.3	127	7.0	29	1.6
H22	1,823	1,179	64.7	459	25.2	75	4.1	110	6.0	16	0.9
H23	1,819	1,222	67.2	425	23.4	67	3.7	105	5.8	11	0.6

資料: 当別町特定健康診査受診結果

〈当別町人工透析者の推移(国保・後期高齢加入者・生保分)〉



年 度		H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
原因疾患	腎炎ほか	29	29	29	28	29	30	30	26
	糖尿病性	21	22	19	19	15	18	16	12
	合 計	50	51	48	47	44	48	46	38



年 度		H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
原因疾患	腎炎ほか	4	1	4	2	4	5	3	5
	糖尿病性	4	4	2	5	2	5	1	2
	合 計	8	5	6	7	6	10	4	7

#### ④ 循環器疾患の状況

##### ア 高血圧の状況

高血圧の循環器疾患発症リスクから、肥満を伴う人のみではなく、Ⅱ度・Ⅲ度高血圧者にも保健指導を実施しています。Ⅱ度・Ⅲ度高血圧者の割合は改善傾向にあります。

##### 〈血圧値の推移〉

年度	正常～正常高値		Ⅰ度高血圧		Ⅱ度高血圧		Ⅲ度高血圧	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
H20	1,489	75.7	371	18.9	92	4.7	16	0.8
H21	1,367	75.0	387	21.2	59	3.2	10	0.5
H22	1,415	76.9	346	18.8	69	3.8	9	0.5
H23	1,382	75.5	376	20.5	61	3.3	11	0.6

資料: 当別町特定健康診査受診結果

##### イ 脂質異常症の状況

女性より、男性のほうがLDLコレステロール160mg/dl以上の方が少ない傾向にあります。男性のほうが虚血性心疾患の発症・死亡リスクが高いため、男性に対する支援が必要であるといえます。

##### 〈LDLコレステロールの男女別推移(LDLコレステロールの単位:mg/dl)〉

性別	総数	正常(119以下)		要指導(120~139)		要医療(140~159)		要医療(160以上)		
		人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	
男性	H20	859	418	48.7	229	26.7	129	15.0	83	9.7
	H21	807	400	49.6	194	24.0	145	18.0	68	8.4
	H22	802	405	50.5	203	25.3	127	15.8	67	8.4
	H23	803	434	54.0	183	22.8	122	15.2	64	8.0
	女性	総数	正常(119以下)		要指導(120~139)		要医療(140~159)		要医療(160以上)	
		人数(人)		割合(%)		人数(人)		割合(%)		
女性	H20	1,109	493	44.5	293	26.4	196	17.7	127	11.5
	H21	1,016	446	43.9	277	27.3	185	18.2	108	10.6
	H22	1,037	462	45.0	270	28.3	166	16.0	105	10.1
	H23	1,027	462	45.0	270	28.3	166	16.0	105	10.1

資料: 当別町特定健康診査受診結果

### 3 がん検診の状況

#### 1) がん検診の受診状況

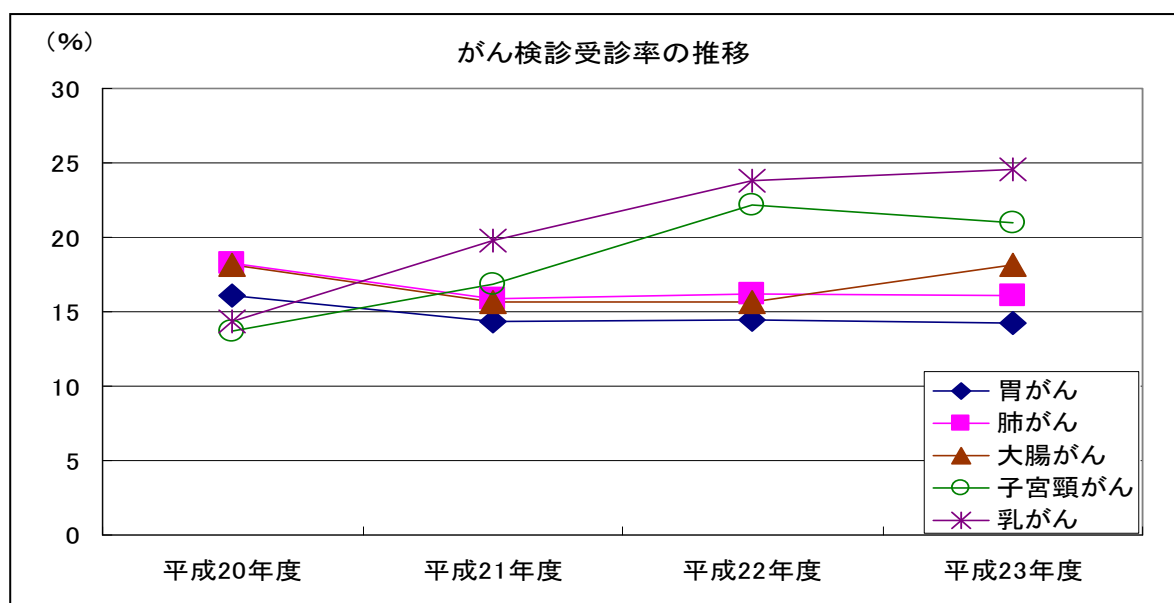
町で実施している各種がん検診の受診状況を見ると、乳がん検診の受診率が24.6%と最も高く、次いで子宮頸がん検診21.0%、大腸がん検診18.2%の順となっています。

平成21年度より、『がん検診推進事業』として対象年齢の方に子宮頸がん及び乳がん検診の無料クーポン券を配布し、平成23年度からは、大腸がん検診の無料クーポン券を配布した影響もあり、子宮頸がん及び乳がん、大腸がん検診の受診率については増加してはりましたが、その他のがん検診については、受診率はほぼ横ばいの状態となっています。

#### 〈がん検診の受診状況〉

	H20年度		H21年度		H22年度		H23年度	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
胃がん	1,025	16.1	1,009	14.1	1,026	14.5	1,035	14.2
肺がん	1,103	18.3	1,068	15.9	1,099	16.2	1,134	16.1
大腸がん	1,097	18.2	1,053	15.7	1,067	15.7	1,286	18.2
子宮頸がん	378	13.7	297	16.9	495	22.2	528	21.0
乳がん	400	14.4	318	19.8	516	23.8	499	24.6

資料: 当別町保健事業実績



資料: 当別町保健事業実績

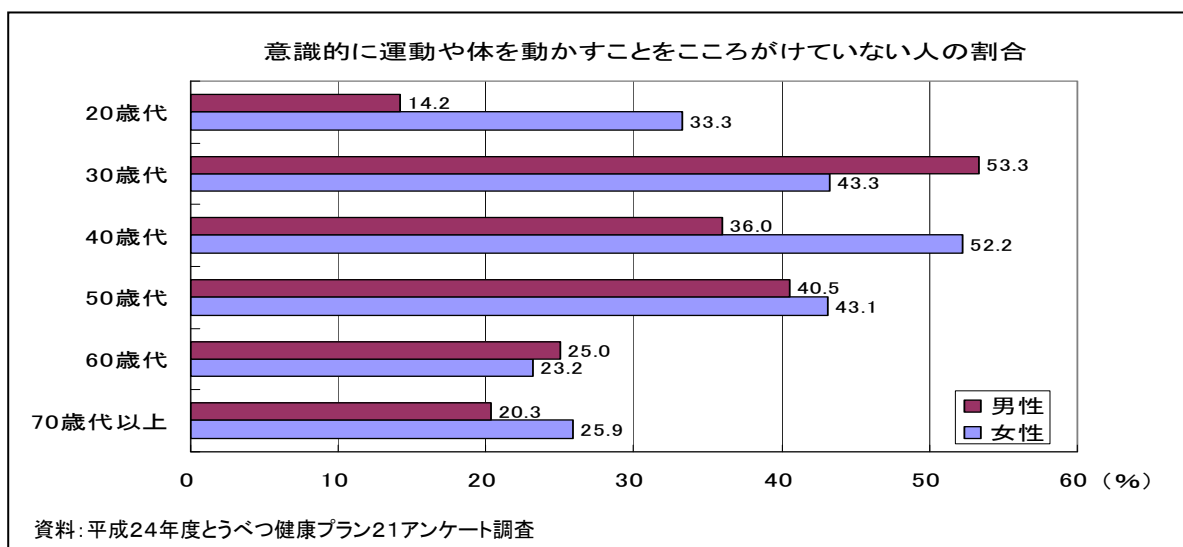
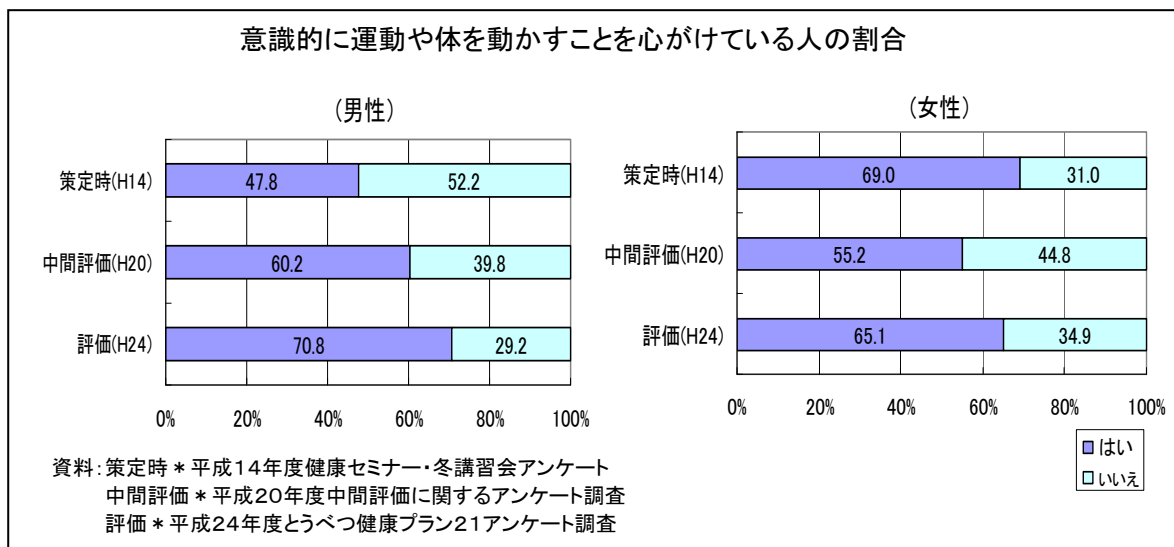
## IV 生活習慣の状況

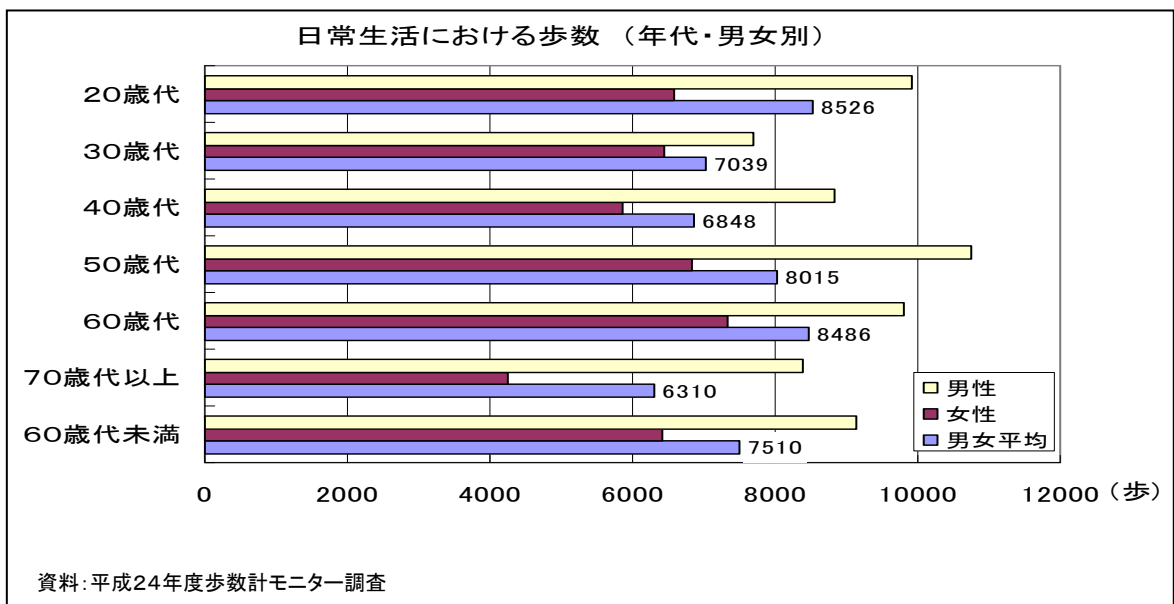
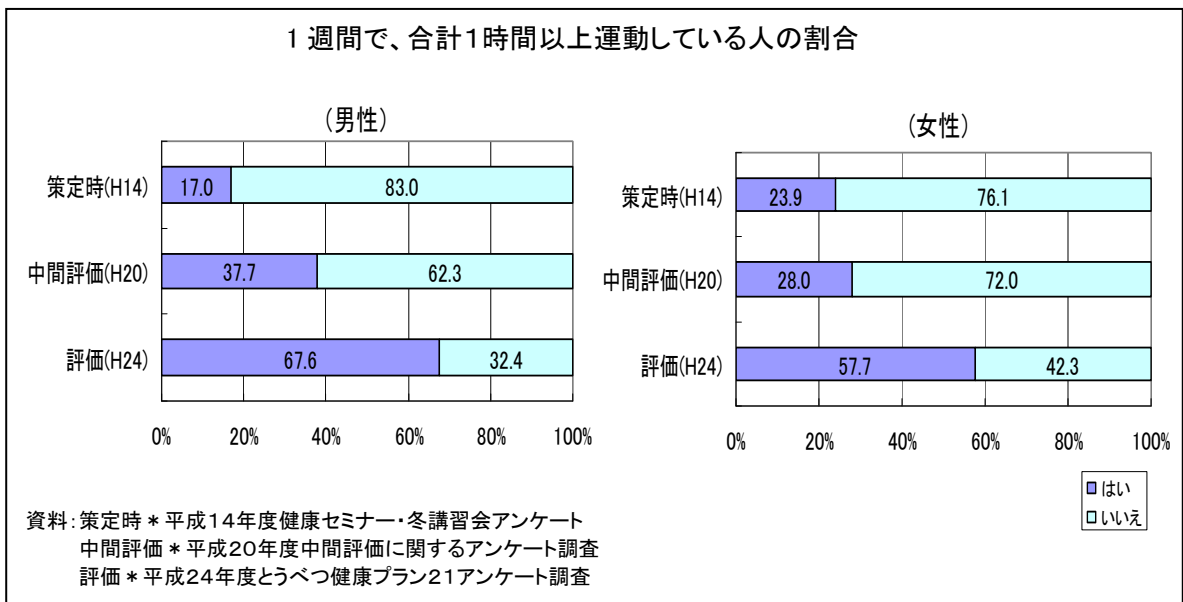
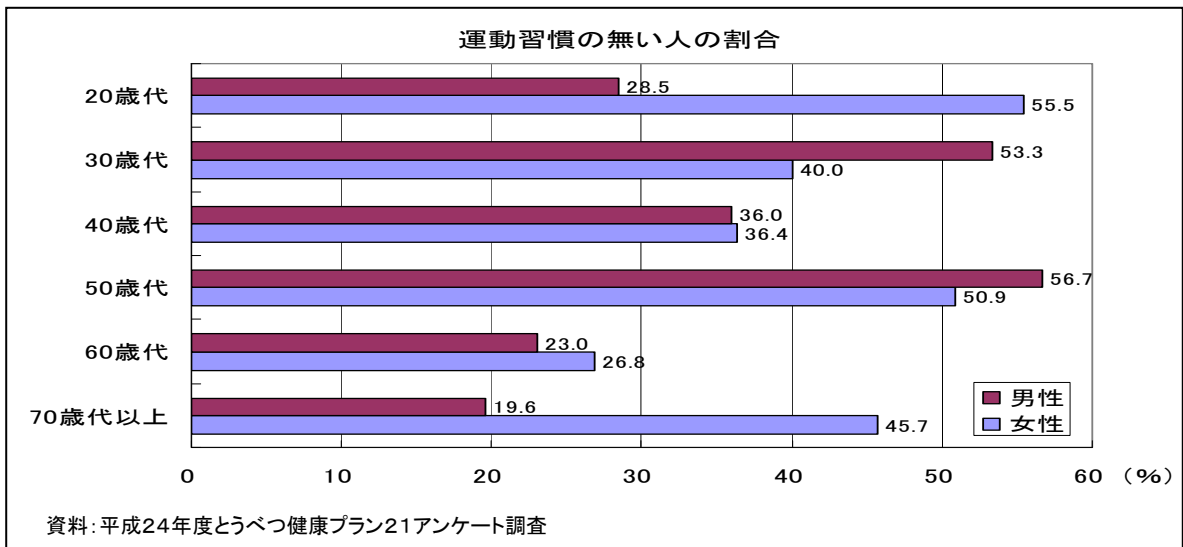
### 1 身体活動・運動

#### 1) 運動習慣の状況

意識的に運動を心がけている人の割合や運動習慣のある人の割合は、策定時及び中間評価と比較して増加しています。しかし、30～50歳代では、意識的に運動や体を動かすことを心がけていない人の割合及び運動習慣の無い人の割合が30～50%と高くなっています。

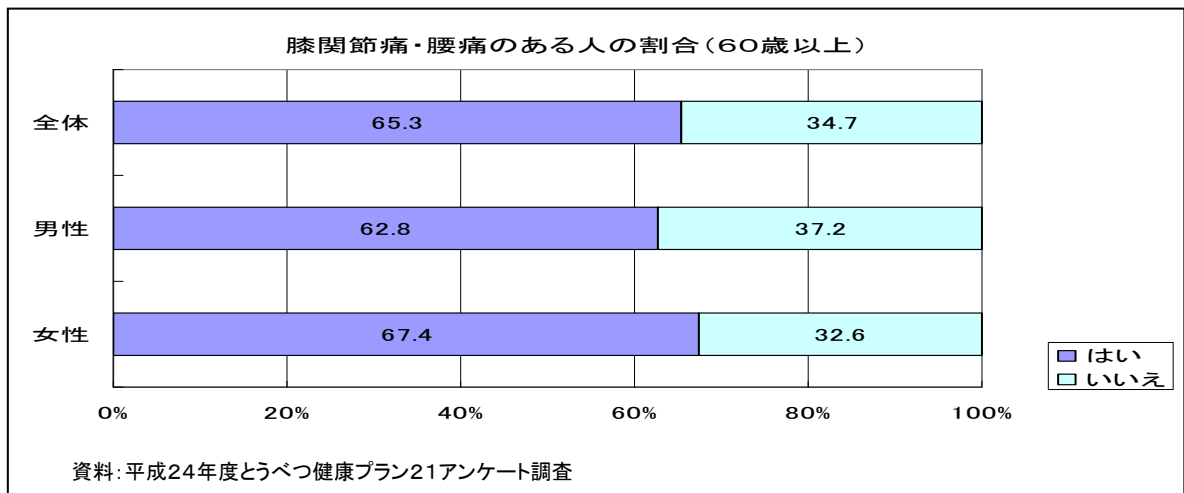
また、歩数モニター調査でも、20～50歳代の1日当たりの歩数は、他の年代と比較し、少なくなっています。





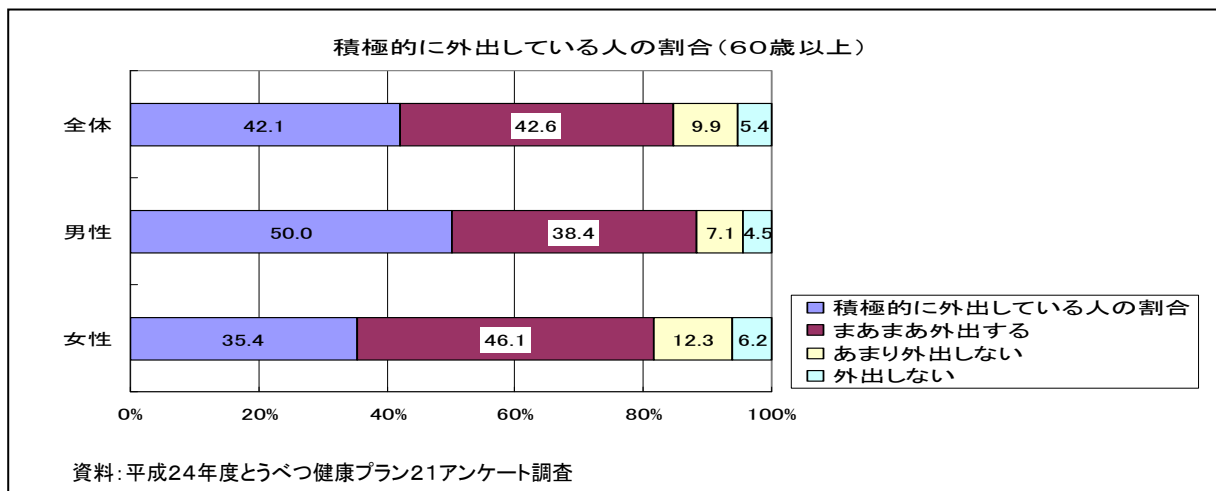
## 2) 60歳以上の膝関節痛・腰痛の状況

60歳代以上では、膝関節・腰痛がある人の割合は半数を超えています。



## 3) 60歳以上の外出状況について

積極的に外出している60歳代以上の人の割合は、男性より女性の方が少なくなっています。

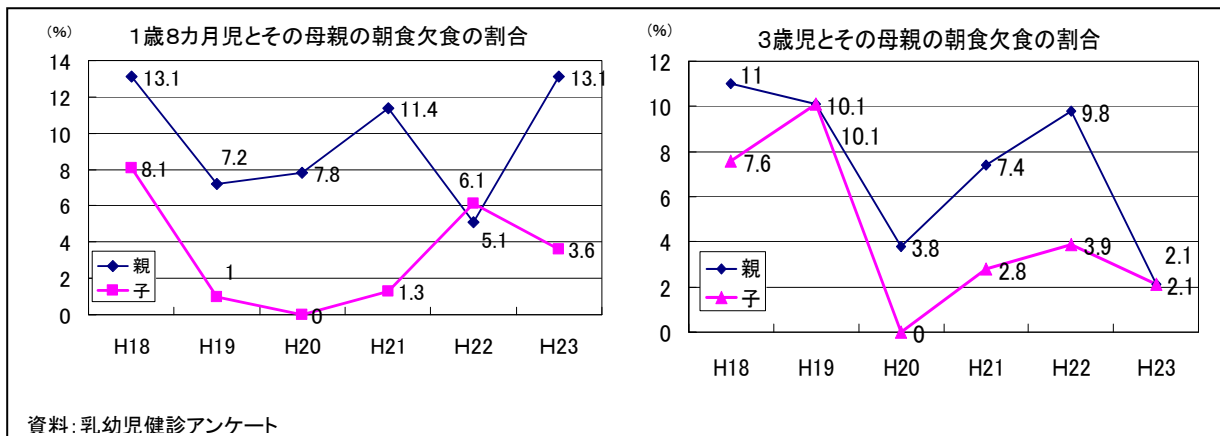
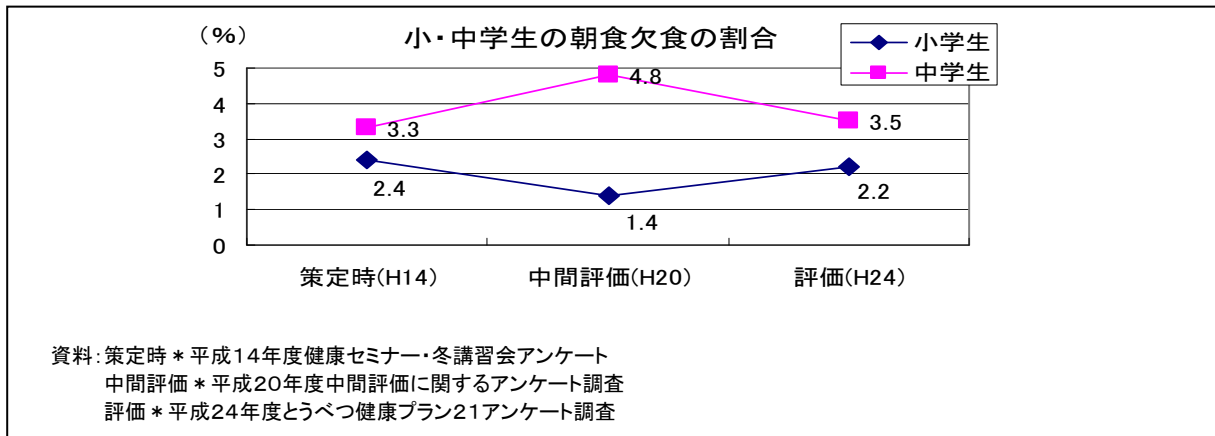
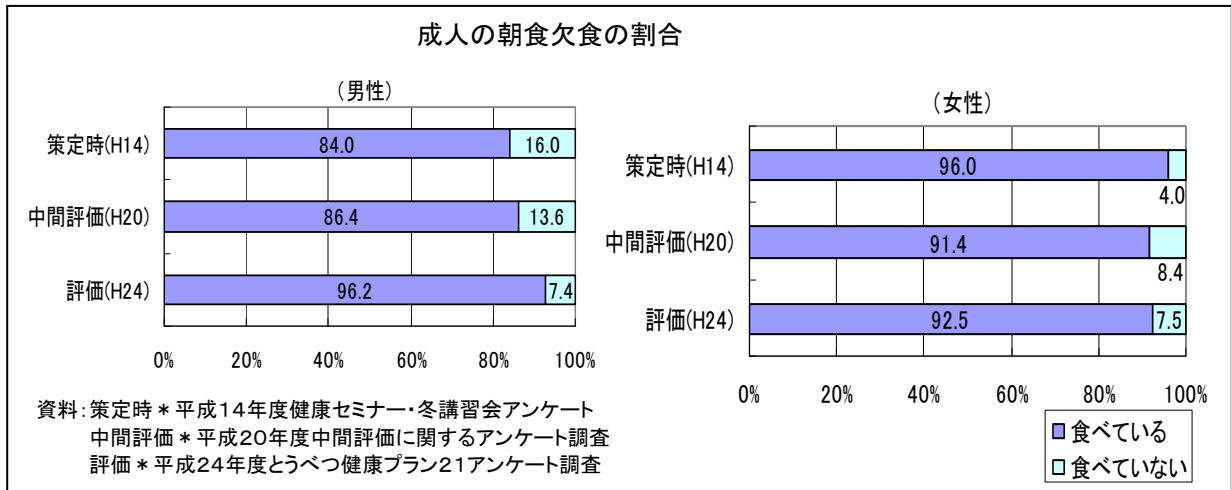




## 2 栄養・食生活

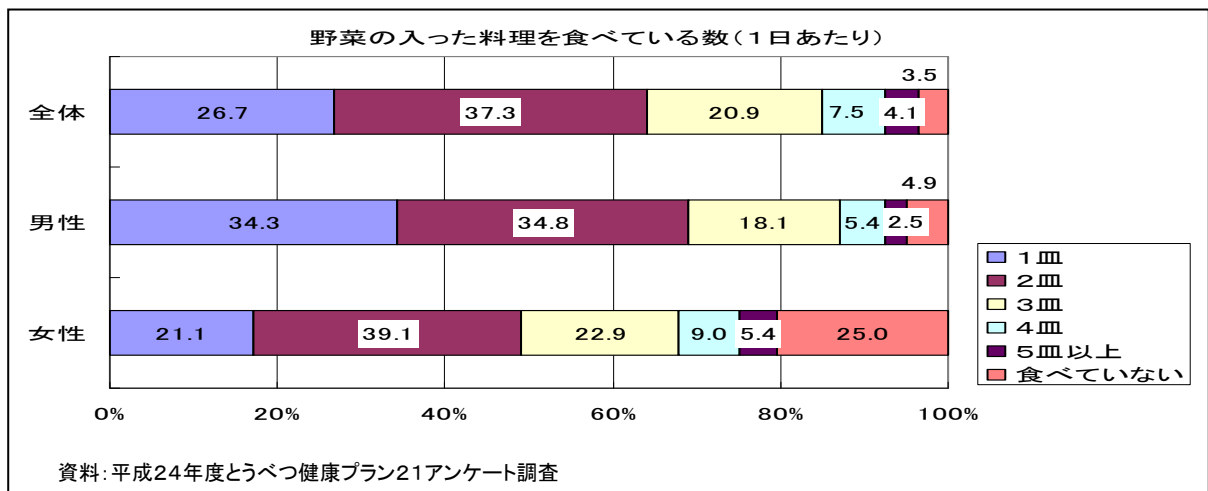
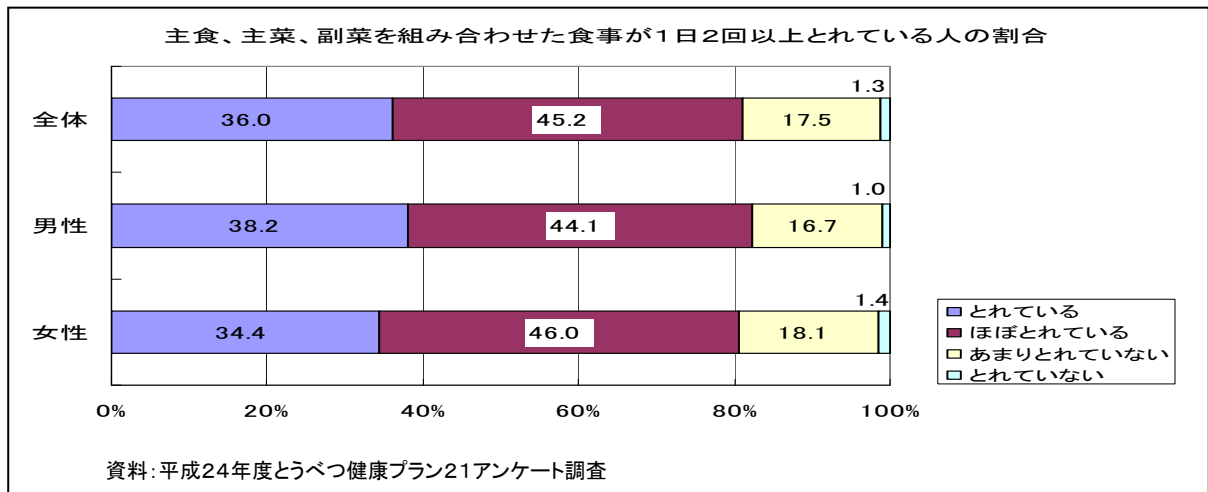
### 1) 朝食欠食の状況

朝食欠食者の割合は、成人男女及び中学生では減少していましたが、小学生では欠食児童の割合が増加しています。乳幼児期では、1歳8カ月児の母親は13.1%、3歳児の母親は2.1%が朝食を欠食する習慣がついており、母親とその乳幼児の欠食の状況はほぼ比例しています。



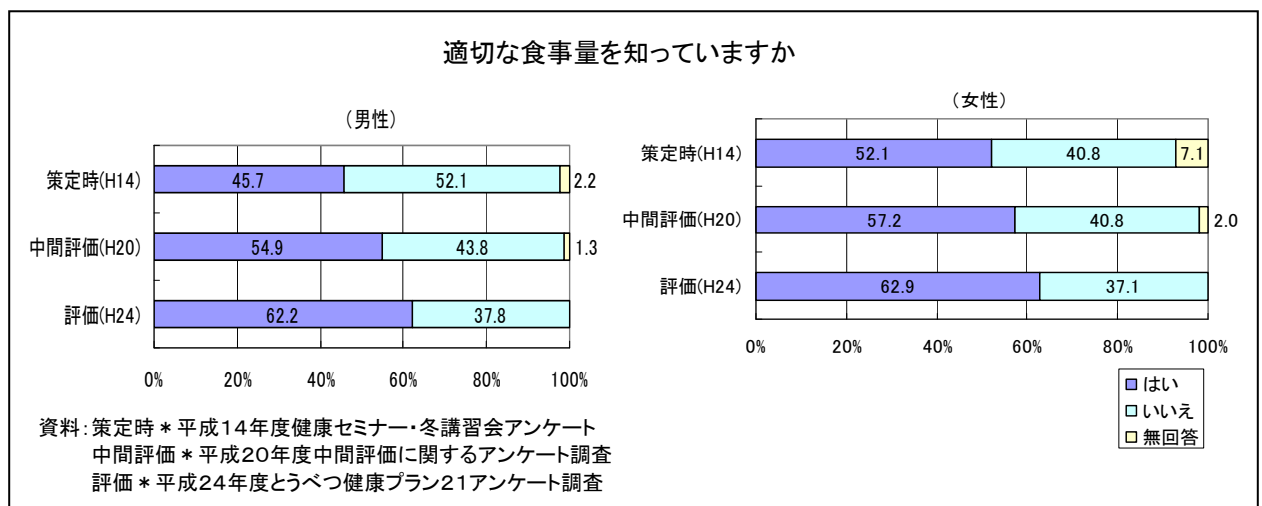
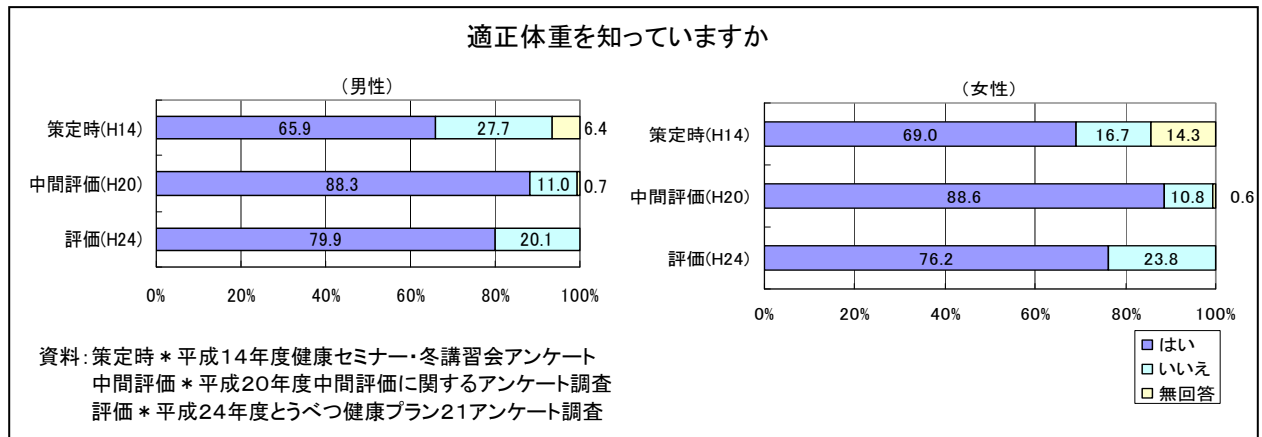
## 2) 食事バランスの状況

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上とれている人の割合は「とれている」、「ほぼとれている」人を合わせて80%を超えていましたが、生活習慣病予防のために必要とされている野菜摂取量1日350g以上の目安となる1日5皿以上の野菜料理を食べている人の割合は4.1%にとどまっています。



### 3) 適正体重と食事量に関する理解の状況

中間評価と比較し、男性女性ともに適正体重(※5)を知っている人は減少傾向にありました。適切な食事量を知っている人の割合は、男性女性ともに増加しており、知識のある人は増加しています。

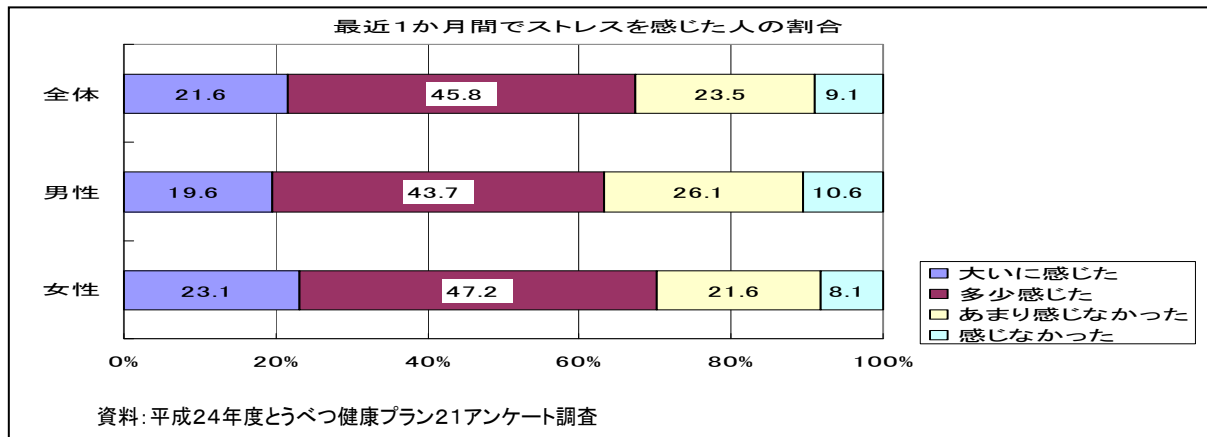


(※5)適正体重・・・「身長(m)×身長(m)×22」で算出される標準体重のこと。健康で長生きできる理想の体重と言われている。

### 3 こころの健康

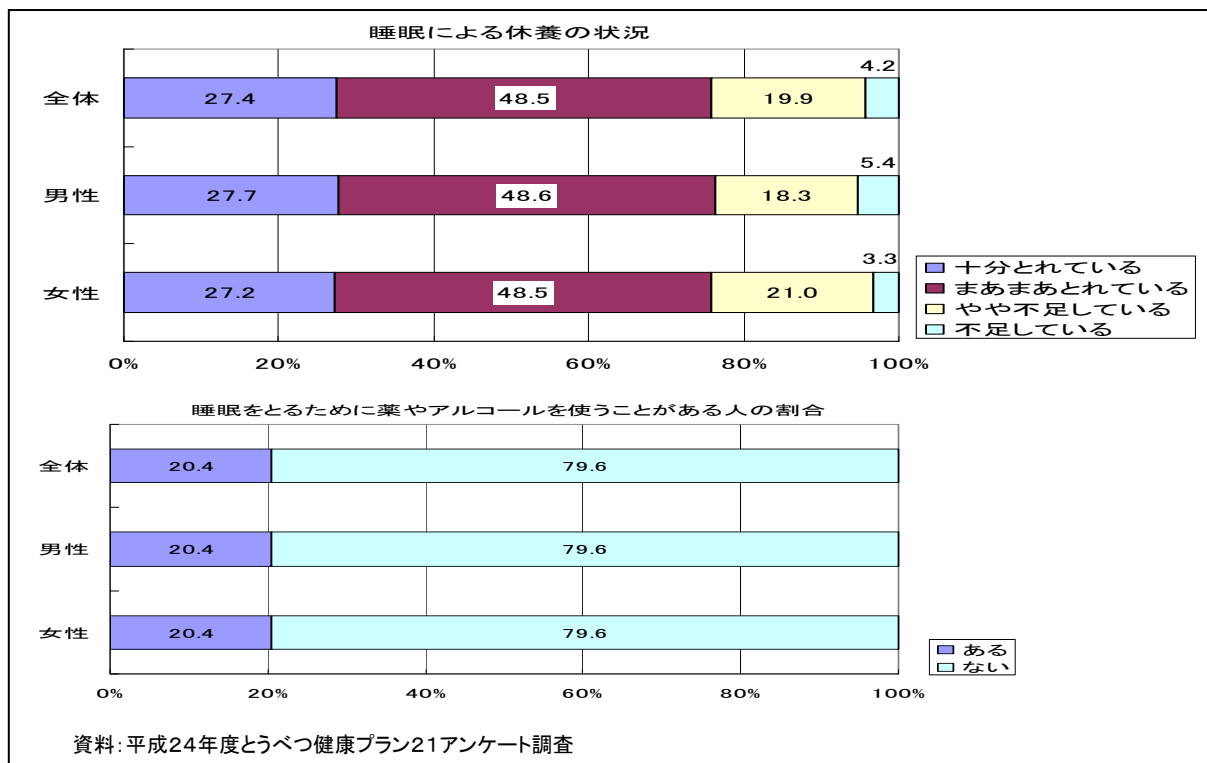
#### 1) ストレスの状況

最近1か月間でストレスを「大いに感じた」「多少感じた」人は、全体で67.4%と増加しています。



#### 2) 睡眠・休養の状況

睡眠による十分な休養が「やや不足している」「不足している」人は、全体で24.1%、また、「睡眠をとるために薬やアルコールを使うことのある」人は、全体で20.4%といずれも増加しています。

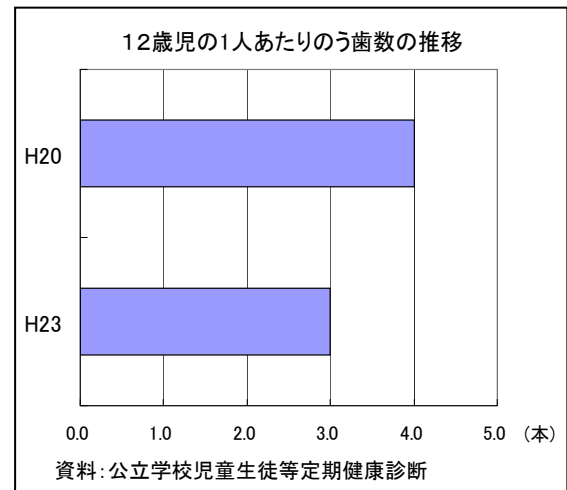
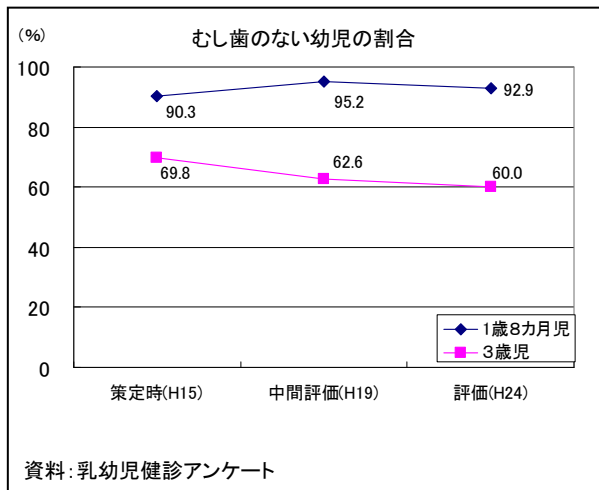


## 4 歯・口の健康

### 1) 幼児期および学童・思春期のむし歯の状況

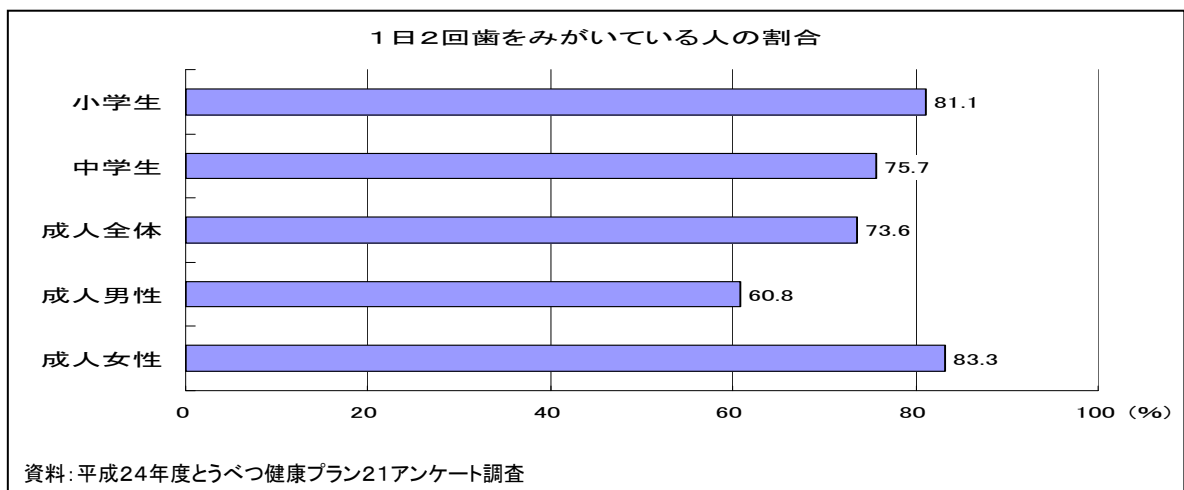
3歳児でむし歯のない幼児の割合は、60.0%であり、悪化しています。

12歳児の1人あたりのう歯数は、3.0本以下となり、平成20年の4.0本以下より改善しています。



### 2) 歯みがきの状況

1日2回以上歯をみがいている人の割合は、小学生では81.1%、中学生では75.7%、成人全体では、73.6%となっており、成人では女性よりも男性の方が1日2回以上歯みがきをしている人の割合が低くなっています。



### 3) 歯科健診を受ける人の状況と歯周病のある人の状況

60歳以上で定期的に歯科健診を受ける人の割合は、60.7%であり、大きく改善しています。

成人全体の歯科健診受診状況は、平均受診率が52.8%と半数以上の人々が定期的に歯科健診を受診しています。年代別では、60歳代が一番高く、次いで20歳代となっており、30歳代、40歳代、50歳代及び80歳代以上は、平均以下の受診率となっています。

歯周病のある人の割合は、成人全体では58.8%となっており、年代別では、30歳代以上の人の半数以上に歯周病があります。

